

ACA 比叡山マルチ～第1スラブスーパー～

【報告者】I藤

【日時】2018年5月14日(月)

【天候】晴れ

【参加者】I藤、T上(フェニックス)

《コースタイム》

取り付き 9:30-3ピッチ目小休止(亀の甲羅スラブ手前) 11:55-終了点 14:30

《報告》

前日の雨天で、岩場について若干心配していましたが、南面は日が当たって全面乾いていました。登攀する際の注意点として、ラインをそのまま登るのではなく、落下係数(=墜落距離/ロープが繰り出された長さ)を考慮し、カム(プロテクション)を積極的に使うように繰り返し説明を受けます。(カムを使用するのは、5m間隔が適切ですが、実際はクラックが容易に見つかるわけではない。)

1ピッチ目(50m IV): T上氏リード 0ピン目のカラビナに忘れないよう必ずロープにクリップすること。

2ピッチ目(50m IV+): I藤リード 上記同様、0ピンランナーを忘れないこと。指先を使えば、ホールドは拾えて登れます。確保場所に到着し、支点をとり、フォローの確保を行いました。ATC確保器やフォロアーのロープの向きが逆に気づき、何度か確認してやり直し、仕上がったと思えば、確保器の位置が低すぎて、引き上げにくくなってしまいました。T上氏よりコールあり、ボディビレイでも良いとのことで、(但し、不安定・不確実なものとなる)ビレイループにセットし直しました。しかし、支点とATC確保器との間にカラビナをセットして、ワンターンして引き上げるようにし、滑落荷重の向きを上方に変えないと、ビレイヤーはフォロアーの墜落は止められず、衝撃で下方に引きずりこまれやすい、という事を教えて頂きました。(よく考えてみれば分かります)

3ピッチ目(45m IV-): I藤リード: 1ピン目過ぎに手頃なクラックがあり、2、3m近い間隔で、カムを不必要にセットしてしまいました。また、ロープに引かれていく方向にセットしたところ、すぐに抜けてしまったこと、カムのステムに下向きの力になっておらず、予想荷重方向に向くようにセットすることなど説明を受けました。次に上がり込んだところは、安定したテラスに太い立ち木があり、確保支点に丁度良いかと思い、そこで支点を作成し、ピッチを切りました。しかし、4ピッチ目の確保支点は、右方向に数メートル上がり込んだところだと教えてもらいながら、確保支点を誤ってしまいました。

4ピッチ目(亀の甲羅スラブ 35m IV+): T上氏リード

5・6ピッチ目(25m IV・25m IV+): I藤リード

5・6ピッチ目は、フレックした岩があるから注意するようにとアドバイスをもらい、リードでスタートしました。まさか大岩が剥がれないだろうそっと掴み、上がり込みました。その時コールあり、「ロープを上！」となるほど納得、意味が理解出来ました。しかし、時すでに遅し。2本のロープは、フレックしている岩の隙間に引っ掛かり、抵抗が強くなり、身動きが難しく、まさに窮地に立たされまし



4ピッチ目テラスからの矢筈岳

た。そのまま 1m 程度下りましたが、手足のホールドも小さく、岩の上に 1 本ずつ引きながら、そのまま墜落しそうな恐怖を感じました。6 ピッチ目で、確保支点を作成すればよかったです、どうやら見落としていたようです。ロープは引き上げることは出来ましたが、さらに次の岩のルートにカムをセットし、屈曲もしていたので、7 ピッチ目の確保支点手前ではロープが足りなくなりました。貧弱ではありましたが、支点が動かないことを確認して、手前の草付きを利用し、確保支点を作成しました。しかし、足場は狭く、ロープもまとめる事も出来ないまま、フォロアーのビレイに入り、ここでは時間がかかってしまいました。非常に不安定な状況、時間のロスとなりました。

7 ピッチ目 (40m V+) : T 上氏リード

最終ピッチ(35m IV-) : I 藤リード

どうにか大木の終了点に到着しましたが、数本の残置ロープの確保支点にカラビナを付け、ロープを通せばよいものの、さらに流動分散を作成したので、手元でのロープの引き上げが追いつかず、結果的にフォロアーにロープを片手で持たせたまま、登攀が終了となってしまいました。

まとめとして、平日の岩場は貸し切り状態で、また、天候に恵まれたことは非常に良かったです。また、ルートファインティングをし、ランニングビレイやナチュラルプロテクションを適宜活用し、確保支点を作成し、反復練習することも出来ました。しかし今後、ルートやロープの長さも考慮し、アンカーの位置など様々に経験を積んでいく事が必要だと感じました。